

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091400061		
法人名	社会福祉法人 誠和会		
事業所名	グループホーム すみれの花		
所在地	福岡県福岡市早良区荒江3丁目20番3号 (電話) 092-833-1880		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 1 日	評価結果確定日	令和 6 年 1 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①ご利用者の生活歴や趣味嗜好を考慮し、ご本人の思想やペースを尊重し、その方らしい暮らし方や個別支援の充実を心掛けています。また「願い・叶え」の取り組みで利用者の眩きに耳を傾け、ご家族の要望も含め可能な限り希望の企画を立て実施を行っている。②法人で年間研修計画を立て、多職種による指導や研修体制を整え、職員の質の向上に努めています。③施設内の庭園は、四季折々の植物や木々があり散歩や季節感を楽しめず。④R5年4月より運営推進会議を再開しており、職員の地域行事参加を始め社会との繋がりを図り、地域貢献活動にも徐々に力を入れていきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 29 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は3階建ての建物で、小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、法人が運営する特別養護老人ホームと通所介護が隣接している。敷地内には木々や花が植えられ、家族と利用者が散歩を行ったり、ベンチで過ごすことができる。職員は利用者一人ひとりの思いを大切に、日々の会話や小さなつづやきから「願い・叶え」の取組を通して、利用者の主体性を尊重し、日々理念の実践に取り組んでいる。運営推進会議での意見を基に、地域住民と社会福祉協議会と協同して、住民の買い物支援の課題解決に向けて法人全体で取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人には「誠実・信頼・継続」と理念があり、施設には「すべての方の人格を尊重し、共に歩み、共に喜び、お一人お一人が主体性をもって地域での生活を継続できるよう、自立のお手伝いをさせていただきます」を方針として、会議などでも理解を深め意識向上と実践に努めている。	利用者と共に歩んで、共に喜んでもらう「願い・叶え」に取り組んでいる。利用者の小さなつぶやきに耳を傾けて、意向や希望に沿って地域生活が継続できるよう理念を共有して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の散歩の際に、近所の方と挨拶を行い、利用者のことを知って頂ける機会を大切にしている。感染予防のため、利用者の地域行事参加や地域カフェの再開は出来ていないが、公民館館長や地域社会協議会会長などと話す機会を持っている。	自治会に加入している。区長が届けてくれる公民館だよりを利用者が読んでいます。感染対策のため、地域交流は控えている。コロナ禍前は、公園清掃や地域主催の夏祭りなどに利用者と参加したり、事業所主催のクリスマス会や敬老会、餅つき大会、地域カフェの等、地域と積極的に交流していた。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで話し合った、地域行事や地域からの相談を受け、施設で出来ることを検討し、地域の方のお買い物支援の協力や地域の行事に職員が参加しお手伝いを行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度4月より運営推進鍵を再開し、校区公民館館長、地域包括、民生委員、校区社会協議会会長、利用者ご家族に参加していただき、事業所報告を行い、地域からの評価ご助言を頂きサービス向上に活かすように努めている。	2ヶ月に1回開催している。利用者家族や公民館長、民生委員、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員、地域の小規模多機能事業所職員の参加がある。会議では地域住民の買い物の課題について意見があり、社協や民生委員と協議を重ねて、地域住民が事業所に集合して法人の車で買い物に行けるようにする等、意見を運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営で分からないことや相談があれば、行政や地域包括に電話やメールで助言をいただいている。その内容をもとにサービスの向上及び資質の向上に努めている。	介護保険制度やおむつ給付サービス、家族からの相談について行政に確認する等、日頃から行政と連携するよう努めている。コロナ禍前は、市から認知症サポーター研修会開催の依頼があり、講師や研修場所として事業所が活用されていた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束委員会を設置し委員を中心に取り組んでいる。ご利用者の対応やケアの工夫を話し合い、身体拘束をしない取り組みを行っている。内部研修（ウェブ研修）で学び、身体拘束をしないケアについて職員間に周知している。外部研修の参加は本年度はまだできていない。	外出傾向にある利用者について、職員間で情報を共有している。外に出たいと希望がある際は、近隣への散歩や買い物の付き添いを行っている。内部研修を実施し、伝達研修を行っている。研修資料を保管している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内部研修（ウェブ研修）にて、職員の虐待防止に対する意識を高めている。また、虐待が見逃される事がないよう変化や気づきの共有を行っている。昨年度に続き今年度もコロナ感染予防のため外部研修に参加できていないが、スピーチロックの取り組みで職員同士注意し合えるように務めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設玄関に資料を設置し、ご家族からの相談に応じれるようにしている。内部研修のウェブ研修にて職員に周知し、本年度は外部研修に2名参加し、職員に資料を配布し伝達を行った。現在、後見人制度を活用している利用者がある。	管理者は、入居契約時にパンフレット用いて権利擁護に関する制度の説明を行っている。職員一人ひとりの研修計画を立て、web研修の教材や資料を活用して研修を行い、職員の理解度も確認している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、契約書・重要事項説明書をもとに時間をかけて説明をしている。ご利用者やご家族の不安や疑問を伺いながら多職種連携して説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やLINEを利用してご家族とのコミュニケーションを大切に、ご利用者やご家族からのご意見ご要望をお聞きして、できる限り対応しています。また、ご意見箱を玄関に設置しています。苦情要望に関しては第3者委員会に報告している。	職員は利用者との日々の会話から「お茶がおいしくない」と発言があり、おいしいお茶を飲みたいと希望があるのではと推測して、お茶を立てて和菓子と一緒に提供したり、家族から以前のように好きな花を植えて楽しんでほしいと希望があり、庭に花を植えて利用者が水やりを行うようにする等、希望や意向を運営に反映させて支援している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月担当を決めて行事計画・実施・報告を行っている。毎月1回グループホーム会議を実施し、行事、業務、ご利用者の事などそれぞれの職員の意見を交わし反映している。	管理者は職員が意見を言いやすいように日々声かけをすることを心がけている。月1回開催している会議の前に、職員にアンケートをとって意見を募っている。行事の企画や利用者のケアの工夫について職員から提案があり、運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人キャリアパスにより、自己評価・他者評価があり職員個々の努力や実績によりレベルアップが可能で給料に反映する仕組みがある。目標管理シートで各自目標に向かって働く環境づくりを行っている。また、面談を実施し職員が上司に話しやすい環境を作り、個々のモチベーションを上げられるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	ご本人の資質や介護に対する情熱を重視した採用になっており、事業所には経験・年齢・様々な職員が従事しています。得意分野で個人の能力を発揮してもらい、勤務形態は個人の状況や必要に応じて検討し、働きやすい職場作りを心がけている。	外国籍の職員の記録方法について、英語で入力し、日本語に変換できるソフトを導入して、働きやすい環境を作っている。法人全体でキャリアパスの仕組みを整備し、職員一人ひとりが目標を立て、力をつけて欲しいことや目指して欲しい資格等を明確にして、生き生きと働けるよう取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	本年度は外部研修に参加した職員が資料を配布し伝達を行った。また、グループホーム会議にて人権を尊重した対応を話し合い、統一を図っている。ネット配信の研修を視聴し報告書の提出もしてもらっている。	職員は外部研修に参加しており、高齢者の人権やパワーハラスメント、セクシャルハラスメント、LGBT、障がい者や外国人の人権等についての資料を配布して、幅広い分野での人権について知識を深められるよう取り組んでいる。研修資料、報告書が整備されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は職員育成マニュアルに沿って育成する仕組みがある。また、法人キャリアパスにより、レベル別に自己評価と自己目標管理シートにより目標を設定して、年間を通じて自己研鑽と他者評価によりレベルアップと給料へ反映する仕組みがある。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム情報交換会「いとの会」の会員になり、ネットワーク作りや研修会の参加などにより情報交換や施設の質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居初期には、特に時間をかけてご本人との関係性を築くように心がけている。担当者を置きご本人の様子の観察や課題を見極め、ご家族にも協力していただき不安軽減や対応の工夫を職員で共有して環境を整え、ご本人が居心地よく安心して過ごして頂けるよう心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居初期には、特に時間をかけてご家族との関係性を築くように心がけている。また、ご家族の困っている事、不安なこと、要望を確認して施設側として出来ることを一緒に考えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で現状と本人・ご家族の意向を十分に把握し医療機関などの意見も参考にし、支援とサービスを取り入れている。必要に応じて併施設設事業者や他事業所の紹介も行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切にし、ご自分で出来ることは可能な限りご本人にさせていただき、出来ないことをサポートするよう自立支援を行っている。人生の先輩として敬う気持ちを大切にしながら共に過ごし支援関係を築くよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係性の継続を第1に考え、面会時や施設LINEにて細かい事でもご家族に相談しながらご本人を支えています。ご本人の眩きや願いを実現できるよう、ご家族へ仲介し協力を得ている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴やご本人の希望に添った外出支援や友人・知人の面会やお手紙、電話対応を行い、馴染の人や場所が途切れないよう支援に努めている。	入居前面談時に家族や利用者からこれまでの生活歴や友人関係、馴染みの場所について聞き取って把握している。行きつけの美容室や住んでいた地域のスーパーに買い物に出かけたり、友人との面会や電話、年賀状や手紙のやり取りを支援して、関係性が継続できるよう取り組んでいる。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を観察し、リビング席の配置を考慮している。ご利用者同士、時には慰め合い、励まし助け合い、支え合って生活しておられます。職員は見守り、必要に応じて仲介し、トラブル防止に努めています。孤立しやすい方へは、職員が入り橋渡しをして関係性作りを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても築かせていただいた関係性を大切にしながら必要に応じて、相談や支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中でご利用者と1対1での場面を多く設け、利用者一人ひとりの思いや要望を傾聴するようにしています。また、聞き取りが困難な場合は、その方の生活リズムや行動を把握し表情や仕草を観察しながら利用者の思いや意向に近づくよう努めている。	利用者の希望や意向の把握は、事業所の取り組みである「願い・叶え」の中で、日常的に行っている。意思疎通が難しく、希望や意向が伝えられない利用者については、日々のコミュニケーションの中で気持ちを推測し、家族からの情報を基に、希望や意向を把握するように努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に時間をかけて生活歴・これまでの暮らし方・環境や利用したサービスなどについて幅広く情報を収集し、その方にとって安心できる生活環境を整え、その人らしい生活が送れるよう努力している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の場と時間を共有し寄り添うことでご利用者の1日の過ごし方や生活スタイル、リズムの把握に努めています。ご本人の持っている力や思いや困りごと等、その都度職員間で情報共有し把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活状況や心身状況に応じて、職員や家族と情報を共有し、その都度、課題とケアのあり方について話し合っている。モニタリングはプランに副って3か月～6か月に行い、担当者会議にて本人、家族、関係者と話し合い、意見やアイデアを反映し介護計画を作成している。	職員は担当する利用者の経過と課題の整理を毎月行い、まとめている。モニタリングの結果や課題を基に、担当者会議を開催し、ケアマネジャーが介護計画を立てている。介護計画の見直しは状態により3～6ヶ月ごとに見直し、利用者や家族に説明し、同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、ヒヤリハット、事例報告、月一度の経過記録、プラン実施記録等を個別に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりに合ったサービスの提供を心掛け、可能な限りに柔軟性を持って希望に添ったサービス提供ができるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお散歩やお店への買い出しで、地域の方との交流を図っている。毎月開催していた地域カフェや公園掃除、年一度のラン伴などで、地域貢献活動へ参加していただき社会とのつながり継続支援を行っていたが、感染予防のため本年度も実施できていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご家族、ご本人の希望を尊重して、入居前からの継続を希望される方は継続していただいている。また、母体が協力病院であることから、入居後事業所の協力病院に変更される場合もある。受診が家族対応の場合は、定期的に生活状況やバイタル状況を主治医に書面で報告している。	今までのかかりつけ医を継続して受診することも可能で、その際の受診支援は家族が行うこととしている。連携医療機関がかかりつけ医の場合は、職員が受診を支援し、受診結果は電話やSNSを活用して家族に報告している。家族が受診支援の際は、書面にまとめた「日常生活の経過報告」を持参している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの変化や生活の中での変化、気になることはその都度、併設看護に報告して、専門的立場での対応を委ねている。必要に応じて看護からご家族に相談をして、受診対応の検討を行い緊急時には受診対応を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院した場合はお見舞いに出向き、看護師や主治医などと情報交換を行い、環境の変化によるご利用者の混乱時は馴染みの職員が出向き、安心して治療ができるよう対応を行っていたが、本年度も感染予防のため、看護師や地域連携室への電話でのやり取りで連携を図っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を定め、契約時に重度化した場合や終末期の在り方についてご本人やご家族の希望を伺っている。経過と共に考えが変わる場合があるため、その都度相談して頂くように伝え、緊急対応や重度化について同意書をいただいている。法人内に病院や特養施設があり安心の一つになっている。	重度化した場合の対応に係る指針を明文化しており、事業所で対応できる最大の支援内容は、契約時や、折に触れて家族に繰り返し説明を行っている。医療的な行為が必要となる場合や、事業所での生活が困難となった場合は、隣接する特別養護老人ホームへ入所することが可能となっている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で年間を通じて計画的に緊急時対応や緊急蘇生法、事故発生時の手順、夜勤開始時の研修など内部研修を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、年2回併設施設と合同で昼夜を想定した避難訓練を実施。6月の運営推進会議の中に、避難訓練を計画し、消防署員と地域住民の方の参加のもと訓練を行い好評を得て地域協力体制が少しずつ築けている。	年2回避難訓練を実施し、消防署や地域住民が参加している。うち1回は夜間を想定した訓練である。消防署の指導を得て、避難経路の確認や消火器の使用方法を学んでいる。また、消防署が水害や高潮時の対応について指導研修を行っている。隣接する特別養護老人ホームに3日分の水や食料、発電機等をまとめて備蓄している。	災害時に孤立した場合を想定して、事業所内に食料品や備品の準備をお願いしたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の念を持ち、その方の生きて来られた歴史や人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように個々に合わせた声掛けを行っている。入浴、排泄はもちろん、日々の業務の中で職員1人ひとり常に意識して取り組んでいる。	プライバシーの確保や人格の尊重について、新人研修や内部研修に組み込んで実施し、研修の理解度を確認するテストもしている。業務中は常に意識し、部屋への入室時のノックや声かけ、トイレや更衣の際に扉は必ず閉めること等、基本的なことを徹底している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の一方向的働きかけではなく、「ご本人がどうしたいのか？」発語が難しい方へは思いを探り日頃の呟きに耳を傾け、思いや希望を伺いながら自己決定出来るように心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人がどう過ごしたいのかを優先し、支援を心掛けている。また、一人一人のペースを大切にし、生活の中で出来ることへの意欲を尊重し見守りながら支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧用具が不足した時はご家族へ連絡し、お持ちいただいている。起床時・入浴後・外出の際の洋服の選択やアクセサリ等、その方の状態に合わせて声掛けや支援を実施している。現在は訪問美容のみでカットを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の食事は、法人管理栄養士が栄養バランスや季節を考慮して献立を作成し、厨房職員と共に調理を行っている。コロナ感染予防のため、汁物・おやつ調理は中止していたが10月より週一度のおやつ作りを再開し、感染予防に努めながら実施している。	管理栄養士が献立を立て、隣接する特別養護老人ホームの厨房で調理されたものが事業所に運ばれ、利用者と一緒に食事の盛り付けを行っている。食事の準備や片づけは利用者と一緒にしている。季節感のある食事や郷土料理等、話題性や雰囲気も大切にし、食事が楽しみになるように取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、摂取量の管理をしている。少ない方にはご家族からの差し入れや好みの物を個別に提供している。食べやすい形態・飲みやすい方法等を考慮し、その方のペースに合わせて提供している。水分1日1000cc以上を目標にこまめな提供を実施。月1回体重測定にて体重管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の力に応じて毎食後声掛けや口腔ケア介助を行っている。その方の口腔状態に合ったケア用品、歯ブラシ、口腔スポンジや歯間ブラシ等を使用し、義歯は毎日夕食後に洗浄剤に浸けて清潔を保っている。必要に応じて提携歯科往診も行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時はタブレットに入力し、お一人お一人の排泄リズムの把握に努め、失禁なく快適で清潔が保持されるよう心がけている。介助が必要な方には食事前後やご本人のサインを観察しトイレ誘導を行っている。また、その方の今の状態に適した下着、尿取りパッドなどの検討を随時行い、自立に向けた支援を心がけている。	排泄時にタブレットに入力し、時間を見計らったトイレ誘導や、排便の調整を行っている。各部屋にトイレがあるため、プライバシーも保たれている。トイレ動作を忘れてしまった利用者には、直感的にトイレを認識できるようにピクトグラムを活用して排泄の自立に向けて工夫している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認票により、排便状況を職員間で共有し把握。必要な場合は看護へ報告して指示を仰いでいる。牛乳やヨーグルト、ココアなどを提供したり散歩や運動を促し、自然排便できるように支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人の意向、体調を確認した上で入浴の支援を行っている。湯舟に浸かることが好きな方は湯舟をまたいでいただけるよう体操の時間に下肢筋力維持のための運動を行っている。入浴に抵抗がある方へは職員間で成功事例を共有して声掛けを工夫し、抵抗が少なく安全に入浴して頂けるよう努めている。	入浴の準備は毎日行っており、希望に応じて入浴することができる。夜間帯は足浴を行っている。入浴を好まない利用者には、入浴がレクリエーションになるように、お風呂バッグやスタンプカードを使った動機付けの工夫に取り組んでいる。柚子湯や入浴剤を入れたり、特別養護老人ホームの温泉に行く等、入浴が楽しみとなるよう工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活習慣、体調、体力を考慮し、適度な休息、運動など就寝の支援を行っている。不眠傾向のある方には日中の活動の満足度を高めたり、散歩や日光浴を実施。飲み物提供時はカフェインの摂取時間や量にも配慮。就寝に向けた環境作り（照明やヒーリング音楽）を行い夜間の安眠に繋がるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報をファイルに入れ、いつでも確認できるようにしている。予測される副作用については職員間で共有し異常の際には看護に報告をしている。薬の変更があれば申し送りを通じて周知している。眠前薬の頓服の調整が必要な場合はチェックシートを使い観察を行い主治医に報告し調整を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯・掃除・片付け・生け花等生活の中でその方の出来る事、できそうな事を探し役割を持っていただいている。音楽、新聞等その方の生活歴に応じた支援を行い、その中で希望に応じての散歩やドライブ等できる事を提供し、施設での生活が楽しいものであるよう心がけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、園芸、外気浴等、日課となる外出にはその都度対応している。遠方への外出は気候や感染状況を考慮した上で計画を立てドライブ等を実施している。利用者やご家族からの願いや要望を叶える為、感染対策を行いながら、ご家族の協力や理解を得、出来る限りの支援を行っている。	コロナ禍前に行っていた外出支援は徐々に再開し、コスモス見学や海へのドライブ等、月に1度のペースで実施している。近隣の商店へは週に1度の頻度で買い物に行き、公園のように樹木が整備されている事業所の周辺を毎日のように散歩に出かけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭はご自分で管理されている。管理が難しい方や不安の強い方にはお財布を持っていただき、紛失しないよう見守っている。買い物の希望がある時には、近隣のコンビニに職員が付き添い、見守りのなか、買い物、支払いをされている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれていない方は希望時に施設電話を使用して頂いている。遠方からの電話や手紙の取次ぎを行い、関係が途絶えないようにしている。また、携帯をお持ちの方で携帯の操作が分からない時は家族、知人とお話出来るようお手伝いし取次ぎを行っている。レクで作成した絵葉書をご家族宛てに郵送している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの椅子やテーブルはご利用者の希望や状況に応じてレイアウトを変え、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。10月より週一回のおやつ作りを行い、キッチンからお菓子の焼ける香りで食欲をそそり、リラクセスしていただいている。生け花、唱歌、飾りなどで季節を感じていただけるよう環境作りを行っている。	リビングには音楽が流れており、壁面には利用者が製作した手芸作品や製作物を掲示している。ソファやパーソナルチェアを配置しており、リビングでくつろぐことができる。週に一度、生花を仕入れ、利用者が飾っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター横の椅子、リビングのソファ、テーブル、廊下の椅子などで思い思いに過ごされています。また、1F玄関前のベンチは散歩後の休憩や木々を眺めてリラックスできる場所となっている。お天気の良い日はおやつを食べたり、他の併設施設入居者との交流の場となっている。（一昨年度より交流は避けている）		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできる限り今まで使っていた慣れた物や好みの物、馴染の物を持参していただき、ご本人の居心地良い空間作りを心がけている。少しでも安心して過ごせ、ご自分の居場所だと思っていただけるように、御家族との思い出の写真を飾ったり、季節に合わせて家具の移動を行ったり、御本人が居心地の良い空間となるよう配慮している。	居室には、危険性のあるもの以外は何でも持ち込むことができる。入居前に使用していた馴染みの物が持ち込まれ、家族写真や花が飾られている。大きな窓があり、日差しが差し込む明るい部屋になっている。トイレや洗面台もあるため、周りに気遣うことなく利用することができる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の状況に応じた生活導線に家具の配置を行い、お部屋を真っ暗にする方には点灯センサーの設置、尿意はあるがトイレの場所が分からない方にはセンサーマットを使用して、職員が声掛け見守りする事で自立を促すなど、できる限りご自分の力で行動できる環境作りを行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		